



う え の ひ で か ず  
**上野秀一さん** (京都市右京区)

水稻、ミズナ、伏見とうがらしなど

「まだ会社勤めをしていた頃、この京北田貴の地域も高齢化してきて。地域の若手6人が集まって『田吾作グループ』をつくり、土日に農作業の手伝いを始めた。」これが農業に関わるきっかけだそうです。

「50代半ばで会社を退職した後、1人で『上野農園 田吾作』として農業をやり始めた。他のメンバーはまだ仕事をして、そっちが忙しくて手伝えんようになってたしな。」今は、田貴の地域のおおかたの農地の面倒見ているそうです。

直接飲食店へ出荷する「顔がわかる農産物」がよい、と話されます。エコファーマーの認定も受けて環境にやさしい農業にも取り組んでおられます。

経営の柱であるお米は、用途に合わせて7品種栽培。「砂地なので収量は少なめだけど、味は良いと思う。」

野菜は変わったものを作るほうがおもしろいからと、数多くの種類をつくっておられます。「いろんな情報を得るためにフェイスブックもしている。そうしたら、こんなもの作ってみたい?と声がかかる。」ニュージーランドの研修生が持ってきたのは、バターナッツカボチャ。今はポタージュスープやジャム等に加工して販売されています。



どうしても農作業は1人ですものが多くなります。「一人では嫌気がさす。人を集めたい。人の出入りがあると若い者も来る。そうすると地域に活気が出る。」少しさみしがりな面もお持ちなのかな? フェイスブックも含め、人との関わりを大切に考えておられます。大学や高校の農作業体験の受け入れなども積極的です。

「後継ぎが欲しい。」「高校の頃は『ごんた』やったから。地域に恩返しせんとな。」今の思いをこんな言葉でつぶやいておられました。

上野農園田吾作のホームページもご覧ください

作成日:2018年1月31日(掲載内容は作成日現在の情報です)